令和元年度海邦養秀ネットワーク構築事業

報告書

カナダ

の『家族』に会いに行こう！

海邦養秀ネットワーク構築事業実行委員会

（沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課）

はじめに

はいたい、ぐすーよー　ちゅーうがなびら。

沖縄県民の海外移住は 1899 年のハワイ移民に始まり、20 世紀には多くのウチナーンチュが新天地を求めて海を渡りました。今日では世界各地に約 42 万人の県系人がいると推計され、多くの方々が各分野で活躍するとともに、沖縄と世界の架け橋として大きな役割を果たしております。

海邦養秀ネットワーク構築事業は、沖縄県内の 15 歳から 25 歳までの学生を海外の沖縄県人会へホームステイ派遣し、海外県系人の雄飛の精神や国際感覚を学んでもらうともに、海外の同世代のウチナーンチュとの友情を育むことなどを通して、将来のウチナーネットワークを発展させていくことを目的としています。2007 年のスタートから 2019 年までに7か国 13 県人会へ 138 名の若者を派遣してきました。2019 年は、翌年に移民 120 周年を迎えるカナダブリティッシュコロンビア州（バンクーバー沖縄県友愛会）の元へ大学生2名、専門学校生1名、高校生7名、計 10 名の学生を派遣しました。

学生達は現地プログラムの「サマーピクニック」や「若者交流会」に参加し、遠く離れたカナダで、県人会という組織を中心としながら、沖縄の文化や歴史が継承されていることに驚き、感銘を受けていました。

県人会員の皆様の活発な活動に感動した一方で、沖縄で生活する学生達が沖縄の歴史や文化についてほとんど知っていないことに気づかされ、現地でとても悔しい思いをしたという報告もありました。彼らは帰国後、沖縄の文化を見つめ直し、三線やしまくとぅばの勉強はじめるなど、沖縄を発信するために様々な活動に取り組んでいます。

ホストファミリーの皆様には、本当の家族のように温かく、深い愛情を持って接していただきました。一緒に料理を作ったり、スポーツ観戦やホームパーティーに参加するなど、ホームステイプログラムだからこそ深まる絆があったようです。

学生達が研修を通して得た経験や、バンクーバー沖縄県友愛会の方々と育んだ強い絆は、世代を越えてウチナーネットワークを発展させていくための礎となることでしょう。学生達は、本研修後に沖縄を訪れているウチナーンチュ子弟の留学生や海外市町村研修生の若者と交流を図り、新たなネットワークの絆を紡ぎはじめています。10 月 30 日には SNS を活用し「世界のウチナーンチュの日」を発信する取り組みも積極的に行っており、将来のウチナーネットワークの担い手として活躍してくれるものと期待しています。

結びに、バンクーバー沖縄県友愛会奥間保会長及びホストファミリーの皆様を始め、本研修に御協力いただいたバンクーバー及び沖縄の関係者の皆様には、前途有望な沖縄の若者達に、次代のウチナーネットワークの発展に資する貴重な体験を与えていただいたことを心から感謝申し上げます。

いっぺーにふぇーでーびたん。Thank you very much.

海邦養秀ネットワーク構築事業実行委員会
会長　山城　貴子
（沖縄県文化観光スポーツ部文化スポーツ統括監）

目次

はじめに……海邦養秀ネットワーク構築事業実行委員会　会長　山城　貴子
参加者・事業担当者……3
事業実施スケジュール……4
事前研修……5
本研修カナダバンクーバー派遣　８月３日(土)～８月 12 日(月)……7
現地活動日誌　～カナダ研修にて学生が綴った感想～
事後研修・報告会……17
参加者感想……18
行動宣言……28
派遣後の活動　～研修での学びを学校の報告会やイベントで発信～……29
派遣後アンケート……32
ホストファミリーアンケート……35
新聞記事……37
編集後記……38

参加者・事業担当者

参加者

我喜屋　渚
琉球大学2年次

池原　有沙
専門学校日経ビジネス2年次

砂川　周
沖縄大学1年次

石川　作美
宮古高等学校2年

名嘉村　太一
向陽高等学校2年

仲嶺　真依
那覇国際高等学校2年

松林　永和
開邦高等学校2年

高江洲　ノリカ
昭和薬科大学附属高等学校2年

上地　勇太郎
那覇高等学校1年

譜久島　光莉
向陽高等学校1年

事業担当者

引率者
マッコール　亜貴子
沖縄県　交流推進課

引率者
小野　英美
沖縄県　交流推進課

引率者・担当者
新里　聡
(株)国際旅行社

担当者
與那城　幸太
(株)国際旅行社

担当者
永田　有希
沖縄NGOセンター

担当者
新膳　朋子
沖縄NGOセンター

事業実施スケジュール

日程	内容	場所
４月 10 日(水)	参加者募集告知開始	
５月 12 日(日)	参加者募集説明会	JICA 沖縄　多目的室
５月 17 日(金)	応募〆切	
５月 18 日(土) ～20 日(月)	参加者一次選考会(書類選考)	沖縄県庁
５月 28 日(火) ～29 日(水)	参加者二次選考会(面接)	沖縄県庁
６月　６日(木)	参加者決定	
６月 22 日(土)	第1回事前研修	JICA 沖縄　セミナールーム 311
７月　６日(土) ７日(日)	第2回事前研修(宿泊)	JICA 沖縄　セミナールーム 311 JICA 沖縄　多目的室
７月 20 日(土)	第3回事前研修	JICA 沖縄　セミナールーム 208
８月　３日(土) ～12 日(月)	本研修	カナダブリティッシュコロンビア州 (バンクーバー沖縄県友愛会)
８月 24 日(土)	事後研修	JICA 沖縄　セミナールーム 311
９月 28 日(土)	報告会	JICA 沖縄　多目的室
１月 19 日(日)	OBOG 会	浦添市内

事前研修

第1回事前研修:6月22日(土)9:45～17:00　(JICA沖縄　セミナールーム311)

1. 内容:(1)オリエンテーション(保護者出席)

(2)アイスブレイク・チームビルディング

(3)課題発表「バンクーバーについて」

(4)課題映画「バンクーバー朝日」の感想を共有

(5)事業目的確認

2. 協力者:沖縄パンアメリカン連合会会長　大山盛稔

クリスティーナ真理子パターソン(2019 年度ウチナーンチュ子弟等留学生・県系2世)

第2回事前研修(宿泊)1日目:7月6日(土)10:00～18:00　(JICA 沖縄　セミナールーム 311)

1. 内容:(1)講座「沖縄の歴史と移民」

(2)課題発表「私のファミリーヒストリー」「地域の移民の歴史について」

(3)英語学習

(4)チームビルディング

(5)チームミーティング「チームとして大切したいこと」

2. 協力者:講座講師　山城彰子(琉球大学非常勤講師)

第2回事前研修（宿泊）2日目：7月7日（日）9:00～16:00 （JICA 沖縄　多目的ルーム）

1. 内容：（1）移民学習（フォトランゲージ）

（2）チームミーティング

（3）バンクーバー沖縄県友愛会について

（4）海邦養秀OBOGとのゆんたくタイム

（5）バンクーバー沖縄県友愛会・ホストファミリーとスカイプで挨拶

（6）英語学習

2. 協力者：金城小百合（2018 年度ウチナーンチュ子弟等留学生・県系2世）

クリスティーナ真理子パターソン（2019 年度ウチナーンチュ子弟等留学生・県系2世）

国吉優那、中川僚麻、新里航平、井上奈乃羽、平敷雅（海邦養秀ネットワーク構築事業過去参加者）

第3回事前研修：7月 20 日（土）9:00～17:00 （JICA 沖縄　セミナールーム 208）

1. 内容：（1）チーム行動宣言・個人活動宣言

（2）課題発表「バンクーバー研修での訪問先について」

（3）チームミーティング

（4）英語学習

（5）ホームステイの注意事項・危機管理の確認について

2. 協力者：金城小百合（2018 年度ウチナーンチュ子弟等留学生・県系 2 世）

本研修カナダ・バンクーバー派遣

期間:8月3日(土)〜8月 12 日(月) 10 日間 (バンクーバー滞在期間 8日間)

日付		行程
1日目 8/3(土)	ＡＭ ＰＭ	那覇空港集合 那覇発　成田へ 成田国際空港着 成田発　バンクーバーへ
	ＡＭ ＰＭ	バンクーバー国際空港着 バンクーバー沖縄県友愛会・ホストファミリーとのウェルカムパーティ
2日目 8/4(日)	ＡＭ ＰＭ	プライドパレード見学 ノースバンクーバー見学
3日目 8/5(月)	終日	各ホストファミリーとフリータイム
4日目 8/6(火)	ＡＭ ＰＭ	在バンクーバー日本国総領事館表敬訪問 日系企業訪問（REPUBLICA COFFEE ROASTERS） バンクーバー市内見学（ガスタウン）
5日目 8/7(水)	ＡＭ ＰＭ	スタンレーパーク視察 ブリティッシュコロンビア大学見学 （図書館・ローズガーデン・人類学博物館などを見学）
6日目 8/8(木)	終日	各ホストファミリーとフリータイム
7日目 8/9(金)	ＡＭ ＰＭ	バーナビー日本語学校交流会 日系カナダ人国立博物館・文化センター視察 グランビルアイランド見学
8日目 8/10(土)	終日	バンクーバー沖縄県友愛会サマーピクニック参加 若者交流会
9日目 8/11(日)	ＡＭ ＰＭ	バンクーバー国際空港集合 バンクーバー発　成田へ
10 日目 8/12(月)	ＰＭ	成田国際空港着 成田発　那覇へ 那覇空港着

１日目：令和元年８月３日（土）

時間	内容	場所等
08：00	集合・チェックイン・出発式	那覇空港
11：40	ANA2158 便　那覇空港→成田国際空港	
16：50	AC004 便　成田国際空港→バンクーバー国際空港	成田国際空港
～以下　バンクーバー時間～		
09：25	バンクーバー国際空港到着 バンクーバー沖縄県友愛会・ホストファミリーお迎え	ホストファミリーの車で移動
12：00	ウェルカムパーティー　（Facebook 記事担当：事務局）	奥間会長宅
14：00	解散	

【出発式・バンクーバー到着・ウェルカムパーティー】

・場所：那覇空港、バンクーバー沖縄県友愛会奥間会長宅

・ Facebook 記事担当：事務局

無事にバンクーバーに到着しました。到着後、早速バンクーバー沖縄県友愛会ホストファミリーのみなさんの暖かいお出迎えとウェルカムパーティーでおもてなしを受けました。美味しい昼食を頂き、ミニクイズやビンゴゲームでホストファミリーの方々と交流を楽しみました.。これからの９日間の交流を通してバンクーバーのファミリーと絆も深めて頂きたいです。

２日目：令和元年８月４日(日)

時間	内容	場所等
10：00	バンクーバーアートギャラリー前集合 １日のスケジュール説明 ロブソン通り周辺散策	ホストファミリー送迎
12：00	プライドパレード見学（Facebook 記事担当：我喜屋渚）	ロブソン通り
14：00	昼食	
15：00	ノースバンクーバー見学（Facebook 記事担当：我喜屋渚）	フェリー移動
17：00	解散	

【プライドパレード、ノースバンクーバー見学】

・場所：ロブソン通り、ノースバンクーバー

・ Facebook 記事担当：我喜屋渚

今日は様々な性を持つ LGBTQ の方々の尊重を目的としたプライドパレードを見て、LGBTQ の方々に対するカナダの寛容さを知ることができました。印象的だったのは、「私は自分の LGBTQ の子供を誇りに思っています。」という旗を持ってパレードに参加していた親たちでした。家庭という小さな社会から理解が深まる事はとても良いと思いました。 食後は、Seabus というバンクーバー万博に就航したフェリーでノースバンクーバーに行きました。短い滞在でしたが、壮観な景色を見ることができ感動しました。

3日目：令和元年8月5日(月)

時間	内容	場所等
終日	各ホストファミリーとフリータイム（Facebook 記事担当：譜久島光莉）	

【ホストファミリーフリータイム】

・ Facebook 記事担当：譜久島光莉

私は、Nakasone ファミリー、Lam ファミリー、Miyagi ファミリー、Shoji ファミリーとアメリカとの国境の近くの、Centennial Beach に行きました。沖縄の海とは違って、砂が黒く、粒が細かくて、どこまで行っても浅く、面白いと思いました。カナダの子供達がクラゲの死骸を取って遊んでいたのがすごく驚きで、ユニークな遊びだと思いました。海から上がった後、カナダ流鬼ごっこをして、全員で楽しむことができました。また、この鬼ごっこを機に、色々な人と話をする機会も作れました。話す言葉や文化が違っていても、沖縄という繋がりから、多くの人と交流することができて、とても有意義な時間を過ごすことができたと思います。

４日目：令和元年８月６日(火)

時間	内容	場所等
１０：００	メトロタウン駅前集合	ホストファミリー送迎
１１：００	在バンクーバー日本国総領事館表敬訪問 （Facebook 記事担当：高江洲ノリカ）	電車移動
１２：３０	昼食	
１４：００	フライオーバーカナダ見学	
１５：００	日系企業訪問（REPUBLICA COFFEE ROASTERS） （Facebook 記事担当：松林永和） 県系２世オーナーのツジモトさんのお話	バンクーバー市内
１６：３０	バンクーバー市内見学 ガスタウン見学（Facebook 記事担当：松林永和）	
１８：００	解散	ホストファミリー送迎

【在バンクーバー日本国総領事館表敬訪問】

・場所：在バンクーバー日本国総領事館

・ Facebook 記事担当：高江洲ノリカ

バンクーバー日本国総領事館への訪問をしました。総領事の羽鳥さんと領事の池田さんにお会いすることができ、領事館のお話を聞いたり、決意表明をする機会を得られた事をとても有り難く思います。 私は羽鳥総領事の日本のファンを増やすという言葉が心に残りました。日々様々な人々と関わる中で常に心がけていると仰っていました。私は、沖縄のことをもっとたくさんの人に知ってもらい、好きになってもらうためにも日頃からウチナーンチュとしての自覚を持って行動する事を意識しようと思いました。そして、外交官のお仕事について知る事ができ興味を持ち、自分の将来についてもっと深く考えてみようと思いました。

今日感じた事を大切にしていこうと思います。このように様々なお話をうかがえる機会はとても貴重な体験となったと思います！

【日系企業訪問・バンクーバー市内見学】

・場所：REPUBLICA COFFEE ROASTERS、ガスタウン

・ Facebook 記事担当：松林永和

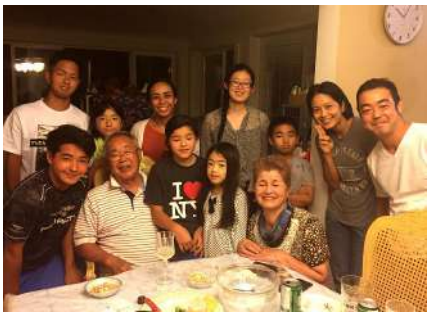
太一と勇太郎のホストファミリーである Tsujimoto さんが経営しているコーヒーショップへ行きました。日系人としての生き方、将来のビジネスプランなどについて話してくださり、いろんな人との繋がりがキャリアアップに繋がっていることを強く感じました。私もプログラムで出会った方々とのネットワークを大切にし、将来に繋げていきたいと思いました。最後に、1867 年にギャシー・ジャック・デイトンが上陸し、バンクーバー発祥の地と言われるガスタウンへ行きました。都市部とは違い、19 世紀の建物をそのまま使用していて昔ながらの雰囲気でした。

５日目：令和元年８月７日（水）

時間	内容	場所等
終日	各ホストファミリーとフリータイム	

【ホストファミリーフリータイム】

各ホストファミリーと過ごしました。



6日目：令和元年8月8日（木）

時間	内容	場所等
09：30	スタンレーパーク集合	ホストファミリー送迎
10：30	スタンレーパークツアー（Facebook 記事担当：石川作実） ①ローズガーデン　②トーテムポールパーク ③ナインオクロックガン　④プロスペクトポイント ⑤ライオンズゲートブリッジ ⑥イングリッシュベイビーチ　など	徒歩移動
13：00	昼食	
15：00	ブリティッシュコロンビア大学見学 （Facebook 記事担当：名嘉村太一） ①図書館　②ローズガーデン　③人類学博物館	
18：30	夕食（ビーチにてピザナイト）	
20：00	解散	ホストファミリー送迎

【スタンレーパーク視察】

・場所：スタンレーパーク

・ Facebook 記事担当：石川作実

スタンレーパークに行きました。バンクーバーのダウンタウンにある世界的にも有名な公園です。広大な敷地には、ローズガーデンやバンクーバー水族館、トーテムポールや夕日が美しいイングリッシュベイと呼ばれるビーチ、プロスペクトポイントと呼ばれる展望スポットなど見所が満載でした。バンクーバー沖縄県友愛会の方々の協力のもと、シーウォールと呼ばれる海沿いの道を使い園内を見学しました。特にトーテムポールパークでは、9本のトーテムポールに人間や動物が彫られ、それぞれ作られた経緯や歴史などが違います。作った先住民達はどのように高い柱を建てたのか、また、現代の私達に何を伝えているのか、1本ずつじっくり観察して考えることができました。先住民の方々は自分の思いを柱に表現し、現代の私達、そして後世へ伝えています。

海邦養秀プログラムで大きなテーマとなるウチナーネットワークについてトーテムポールのように形に残すことはできないものですが、沖縄と世界を繋ぐ大切な繋がりをどのように広げ未来へ継承していくか、先住民達が現代の私達に伝えたように、私達も残りのプログラムを通して考えていきたいです。

【ブリティッシュコロンビア大学見学】

・場所：ブリティッシュコロンビア大学

・ Facebook 記事担当：名嘉村太一

University of British Columbia（略称 UBC）に行きました。UBC はバンクーバーにある大学で、カナダの大学のトップ3に入る名門校で、学生数は約6万人、その内の 20%は海外から進学してきた学生で留学先としても人気の学校です。歴史も長く、今年で 111 年目を迎えます。キャンパス内は広大で、図書館も日本の大学と比べると大きく勉強する環境が整っています。ローズガーデンもあり自然も豊かです。また、大学内にある人類学博物館(MOA)にも行きました。ここはカナダで最も人気のある公立博物館の1つで、元々この地に住んでいたインディアンの方達の彫像やトーテムポールなどが数多く展示されています。また世界中からも多く展示物があり、日本、沖縄のコーナーもありました。UBC の学生はみんな生き生きしていて、僕もここで大学生活をエンジョイしたいと思いました。

7日目：令和元年8月9日(金)

時間	内容	場所等
09：00	バーナビー日本語学校集合	ホストファミリー送迎
09：30	バーナビー日本語学校交流会（Facebook 記事担当：砂川周）	
12：30	昼食	
13：30	日系カナダ人国立博物館・文化センター視察 （Facebook 記事担当：池原有沙）	
15：30	グランビルアイランド散策	
17：30	解散	ホストファミリー送迎

【バーナビー日本語学校交流会】

・場所：LOCHDALE Community Scohool

・ Facebook 記事担当：砂川周

Burnaby Japanese Language School （バーナビー日本語学校）を訪問し、サマーキャンプに参加させてもらいました。家庭背景に日本語が無く、日本語以外の言語で生活している6歳から 12 歳の生徒と交流しながら、日本や沖縄県の食べ物や文化の紹介をしました。現地でどの程度沖縄県について知られているのかを知る事ができたと同時に、現地の学校の様子を実際に見る事ができて良い経験になりました。また、現地の子供達に「だるまさんがころんだ」や「じゃんけん列車」などの日本の昔ながらの遊びを教える事で、日本の文化を伝える事が

できたと思います。約2時間日本語学校で過ごして、子供達は沖縄の文化について興味を持って説明を聞いてくれてとても嬉しく思いました。また、子供達にもあまり知る機会のない知識を伝える事が出来たと思うので良かったです。

【日系カナダ人国立博物館・文化センター視察】

・場所：日系カナダ人国立博物館・文化センター

・ Facebook 記事担当：池原有沙

日系人の歴史や背景について学べる Nikkei National Museum & Cultural Centre に行きました。そこで日系移民が戦時中、敵性外国人として持たされた証明カードや戦後の補償運動のカナダ政府への抗議文など、当時の日系人の生活や情景を学びました。異国の地で生活していくだけでも大変なのに、新境地での労働や戦時中敵とみなした政府への抵抗運動をしていて、日系カナダ人の凄さと尊敬の念を感じました。中でも印象に残ったのは、日系人たちのカナダ政府に対する戦後の補償運動です。1970 年代にカナダ政府に強制収容されている間に全財産を没収し売却された等、今まで日系カナダ人たちに強要された苦労に対して謝罪がほしいと抗議運動を始めました。この話を聴いた時、日系人はどんなに過酷な労働や差別されてきても、国に認めてもらえるように抵抗や運動を行っていたんだと思うと、もし私が当時のカナダに日系人として住んでいたら、諦めずに運動に参加したり政府からの差別的な行為に耐えられないなと思いました。当時の日系人の数々の功績や行ってきた運動の歴史はカナダだけでなく、多くの国にも知って欲しいなと思いました。私自身もその歴史を沖縄で後輩や同世代の人に伝えていきたいと思いました。

8日目：令和元年8月 10 日(土)

時間	内容	場所等
10：30	サマーピクニック会場集合	ホストファミリー送迎
11：00	バンクーバー沖縄県友愛会サマーピクニック参加 （Facebook 記事担当：上地勇太郎）	
12：00	昼食	
13：30	若者交流会（Facebook 記事担当：仲嶺真依）	
14：30	沖縄県参加者による出し物を披露	
15：00	解散	ホストファミリー送迎

【サマーピクニック参加】

・場所：Confederation Park

・ Facebook 記事担当：上地勇太郎

バンクーバー沖縄県友愛会のピクニックに参加して、ゲームなど色々なアクティビティをしました。バンクーバー沖縄県友愛会の方々が作ってくれた料理はとても美味しかったです。私達はバンクーバー沖縄県友愛会への感謝の気持ちを伝えるため、男子は顔を白く塗って宮古のチョンダラーになりきりメンバー全員で踊りや歌を披露しました。バンクーバー沖縄県友愛会みんなで盛り上がってくれて楽しかったです。ピクニック中盤からはバンクーバー沖縄県友愛会の方が三線や手踊りをやりはじめ、沖縄にいるような雰囲気でした。。今沖縄でピクニックでも三線や手踊りはやらないし、そもそも弾けない人の方が多いと思います。そんな中、バンクーバー沖縄県友愛会のみなさんは沖縄とその伝統文化を愛していて、バンクーバー沖縄県友愛会に所属していることを誇りに思っているように感じました。カナダで沖縄に思いを馳せる方々がいる中で、バンクーバー沖縄県友愛会の宣伝やウチナーネットワークの拡大等、沖縄に住んでいる僕達にできる事があります。お互い可能な活動をやる事でより大きく、強い沖縄の輪が広がるのではないかと思いました。また、ますます沖縄県民であることを誇りに思えるようになりました。バンクーバー沖縄県友愛会に負けないよう、日々沖縄愛を育んでいきます！

【若者交流会】

・場所：Confederation Park

・ Facebook 記事担当：仲嶺真依

最終日はカナダ在住の若者との交流会をし、沖縄とカナダの良さについて話し合いました。カナダの方からは、広大な土地だから国内で色んなところに行ける楽しさがある反面、広いゆえに他地域の人との交流を持つ機会が少なくて寂しいという意見がありました。メンバーからは、ウチナーンチュは先祖を大切に想う気持ちが素晴らしいという意見や、私は学校で沖縄文化に触れる機会が多く身近に感じられると話しました。この研修でより一層沖縄の良さに気付けたし、その気持ちを声にしてまとめることで地元の素晴らしさを改めて感じました。

また、これからのネットワーク構築についての意見交換もしました。ウチナーネットワークという概念は難しいけれど、とにかく沖縄のことに興味を持つことからすべての繋がりが始まるのではないかという話をしました。色んな背景をもった日系人の方とお話する中で、やはり若者がこれからの世界のウチナーンチュの繋がりを発展させる要であると感じました。遠いカナダでも日系人が沖縄のことを想ってくれていることを忘れずに、沖縄に帰ってから若者にどう伝えたいのかを考える良い機会となりました。

9日目・10 日目：令和元年8月 11 日(日)～12 日（月）

時間	内容	場所等
11:00	バンクーバー国際空港集合	ホストファミリー送迎
13:50	AC003 便 バンクーバー国際空港 → 成田国際空港	
～以下日本時間 8月 12 日（月）～		
19:00	GK311 便 成田国際空港 → 那覇空港	
22:05	那覇空港着 閉会式	那覇空港到着ロビー
22:30	解散	

事後研修

事後研修：8月24日（土）10：00～17：00　（JICA沖縄　セミナールーム311）

1．内容：（1）バンクーバー研修振り返り

・感動したこと　・苦労したこと　・変わったこと　・インタビュー内容

（2）行動宣言

（3）報告会打ち合わせ

（4）パネル作成

報告会

報告会：9月28日（土）13：30～16：00　（JICA沖縄　多目的室）

1．内容：（1）事業概要説明

（2）研修報告

（3）来場者からの質疑応答

（4）行動宣言

（5）学生代表挨拶

2．主な来場者：保護者、教員、学生、県内沖縄県人会会員、一般客

参加者一人一人が現地研修での発見や学び、今後の行動宣言を発信した。参加者・来場者アンケートでは、当事業参加を通しての参加者の成長や、将来の目標に対する意識の向上がみられるなど、高い評価を得ることができた。

参加者感想

琉球大学　2年次　我喜屋　渚

私は、社会人になる前に世界に繋がりをもち、いろんな価値観を知り、自分を変えるきっかけになればと思い、海邦養秀ネットワーク構築事業への応募を決めました。この事業は、単なる文化交流ではなく、沖縄にルーツを持つ海外移民の方々と繋がりを広げるという大きな目的があります。現在、大学で国際関係学を学んでおり、世界中に沖縄からの移民の方々がいるとは聞いていたものの、実際に彼らと交流する機会がなかったので、この事業に参加することで、移民に関する知識を深めたいと思いました。また、この事業に参加したメンバーの中で、最年長として全員をまとめなければならないという責任感に追われ、苦しい時期もありましたが、事前研修では、誰よりも多く発言したことで、自分に自信を持つきっかけになりました。

現地研修では、バンクーバーと沖縄の食文化や気候の違いを始め、様々な相違点を感じることができました。特に印象に残っているのは、ホームステイでお世話になった、バンクーバー沖縄県友愛会会長の奥間トムさんと沖縄の政治や情勢について語り会えたことです。基地問題を含め、今の沖縄についてどう思うかと聞かれた時は、自身の知っている知識の中でお話をしましたが、より深い知識や語学力があればより深く話すことができたのではと思い、これからも学びつづける姿勢が大切だと感じました。また、沖縄にルーツがあることで沖縄・日本について興味を持っている方々と接することができ、彼らの沖縄や日本を知りたいという姿勢にとても感銘を受けました。独学で日本語を勉強したり、中には沖縄へ行ったときの思い出を語ってくださるなど、彼らの沖縄や日本に対する想いを感じ、私も自分の故郷について様々な視点から関心を持っていこうと思うきっかけとなりました。

バンクーバー沖縄県友愛会の方々と話していく中で、沖縄とバンクーバーのつながりを絶やしたくないという思いがより増していくのを私は感じました。だからこそ、現地プログラムの後半に行われた若者交流会で、将来交流を続けていく主役となる若者たちと一緒に、沖縄とバンクーバーのウチナーネットワーク構築に向けて話ができたことを嬉しく思います。私は彼らと、そして未来の沖縄県系人の方々との繋がりを保っていくためには、連絡を取り合える環境づくりが必要だと考えました。

ホストマザーのゆかりさんが何度も口にした「Keep in touch.」の言葉通り、この事業が終了した後も、旅行の写真を送ってくれたり、私のインスタグラムの投稿にコメントしてくれたりなど、今も交流は続いています。現在幅広く使われている SNS を有効活用し、これからのウチナーナットワークの維持・発展に利用できると考えています。また、バンクーバーの沖縄県系人の方々の沖縄に住む親戚が高齢となっている現在、私の家族が彼らの親戚のような存在となり、これからも沖縄に来る機会を絶やさないように出来れば良いなと考えています。

最後に、私はこの事業に参加することができたことを心から感謝しています。自信が持てず不安を抱いていた自分が、研修後にはここまで変わるということを想像できませんでした。沖縄県系人の方々がバンクーバーにいながら沖縄のことを思っているように、自分から少しずつ沖縄でもできることを見つけていこうと思うようになりました。この事業が終わった現在、私は異文化理解の勉強をしています。この知識をより深め、将来は私が訪れる様々な場所で、出会った人々全員に沖縄を紹介したいです。そして、沖縄という場所で生まれ育った自分のアイデンティティーに誇りを持ち、ウチナーネットワークの一員として、ウチナーネットワークをつなげていくことに、積極的に関わっていきたいです。

専門学校日経ビジネス　2年次　池原　有沙

今回、海邦養秀ネットワーク構築事業のプログラムに参加して、以前の内気で何を挑戦するにもためらいがちだった自分から少し成長出来たと思っています。

私は事前研修前、とても内気で自分の考えを発言することが苦手でした。事前研修でも、人見知りをして話しかけるのに時間がかかり、グループディスカッションではなかなか発言が出来ませんでした。しかし、他の海邦養秀ネットワーク構築事業のメンバーが優しく気軽に話しかけてくれたこともあり、話の輪に入ることが出来ました。 また、私自身沖縄の移民や歴史に疎く情報が少なかったのですが、事前研修で沖縄の移民やその歴史を深く掘り下げた講話を聴くことができました。多くのウチナーンチュが異国の地で生活･経済面で苦しい思いをしながらも助け合い、この研修でバンクーバーに移民してきた人たちの苦悩や経験を自分に置き換えてメンバー同士協力しながら行動したいと思いました。

本研修では、ホストファミリーの温かいお出迎えもあり緊張を和らげることが出来ました。研修内容も普段行くことの出来ない在バンクーバー日本国総領事館へ表敬訪問することができました。羽鳥総領事と池田領事から海外の方に日本のことを好きになってもらうようにアピールしているなどの貴重なお話を伺って、私自身も″沖縄″をどのように海外の方にアピール出来るだろうかと考えるようになりました。印象に残っているプログラムは、毎年 8 月に行われる LGBTQ のパレードを見学したことです。カナダの方々の LGBT に対する考え方が、とても前向きなことにとても驚きました。このパレードに参加している方々が個性的な衣装をまといながら笑顔で参加している姿や観客の人たちが盛り上がっている姿を見て、LGBTQ の歴史などを調べていきたいです。また、バンクーバー沖縄県友愛会の方たちとサマーピクニックでの交流や若者交流会で話し合った、今後の沖縄とカナダ間のネットワークについて、SNS などを活用して交流を続けていきたいです。今後も私たち若者が率先して双方の“繋がり”を大事にしていきたいと思います。

最後に、このプログラムに参加して、海邦養秀ネットワーク構築事業のメンバーや本研修でホストファミリーを始め友愛会の方々、現地の若者とコミュニケーションが取れたことで、少しずつですが積極的に意見を述べるようになりました。また、沖縄に対する誇りを再認識出来ただけでなく、友愛会の方々との交流を深めるなどの貴重な経験をさせていただきました。この経験を活かして、今後も国際交流に積極的に参加し、三線などの伝統文化を引き継いでいけるように頑張りたいです。事務局の方々をはじめ周りでサポートしていただいた親や先生など全ての方に感謝しています。

沖縄大学　1年次　砂川　周

私は海邦養秀ネットワーク構築事業に参加することで、多くの知識を得る事ができただけでなく、カナダでのかけがえのない出会いがありました。この事業を通して、以前より自信を持って積極的に行動する事ができるようになり、私自身の成長を強く感じています。

まず、私はこの事業に参加したきっかけはカナダでのホームステイに興味があった事が大きかったです。これまで、世界のウチナーンチュや海外の県人会などについての知識は全くありませんでしたが、説明会で OBOG の経験談を聞いたことが、大きな動機となりました。

事前研修では、沖縄県の歴史や世界のウチナーンチュ、また移民の歴史について学びました。事前研修のプログラムの中でも、チームビルディングがとても印象に残っています。私は自分がリーダーとして引っ張ろうという気持ちでこの事業に参加したので、チームの雰囲気に関わる事にはより力を入れて取り組みました。事前研修では現地での交流の為に必要なことを学びましたが、どの場面でもチームワークを発揮でき、現地での研修に備える事ができたと思います。

本研修で、最も心に残っているのは、ホストファミリーと過ごし時間です。私のホストファミリーである仲宗根ファミリーはとても温かく迎え入れました。ホストファザーである仲宗根伸さんは私が生活の中で英語を使う機会を沢山作っていただいたので、滞在期間中はとても充実した時間を過ごす事が出来ました。現地プログラムでは、日本領事館や日本語学校、日系移民センターなど様々な場所を訪問することができました。また、プログラムをとおして、友愛会の皆さんをはじめ、他のホストファミリーとの交流ができ、沢山の方々の意見を聞く事ができ、多くの刺激を受けました。特に私たちと同世代である、奥間ファミリーのニッキーと、友愛会の現状や将来の目標、そして沖縄に関する話ができたことが、私にとってとても貴重な時間でした。また、最終日のピクニックで実施した、若者交流会では、今後の友愛会の活性化などについて意見交換をすることができました。バンクーバーと沖縄という遠く離れた場所で、どのように関わっていくかという話題では SNS を活用するという意見が出ていた事が印象に残っています。

この事業では、友愛会の皆さんとの交流やチームとしての活動をとおして新しい発見がありました。事前研修から報告会まで、私達の活動をより良くする為に常にサポートしてくれた皆さんには本当に感謝しています。今後、ウチナーネットワークを継承していくために、これからの私達の活動がとても重要になってくると考えています。私は、この事業を通して出会った方々とネットワークを保ち続け、今回の研修で得た知識を周りの人に共有し、自分にできる活動から取り組み、将来のウチナーネットワークに貢献したいです。

宮古高等学校　2年生　石川　作実

国際交流に挑戦したいと考えながら学校の掲示板を眺めていた私の目に留まったのは、「ウチナーネットワーク」という初めて見る言葉でした。その言葉について調べていくうちに、「ウチナーネットワーク」とは、長い歴史の中で築かれてきた世界と沖縄を繋ぐネットワークであることを知りました。その「ウチナーネットワーク」という言葉に興味を持ち、また、カナダに行きたかったからという曖昧な軽い気持ちで応募しました。

事前研修では、沖縄や移民の歴史を学び、チームで話し合いができたことで、発言力も向上し、積極的・自主的に行動できるようになりました。また、研修がない間も発表資料などの課題を勉強や部活と両立させながら作成し、効率よく且つ楽しみながらこなせるようになりました。このような課題やワークショップをとおして、事前研修でも私は自分の中で少し成長できた気がしました。

カナダでの研修は、初海外の私にとって、新しいことが常にありました。沖縄での普段の生活や目にするものと比較すると、針葉樹林の森があったり、大きな山があったり、高層ビルに大きめの植物が植えられていたり、英語表記の看板や交通ルールが違ったりと、自然や建物など、新鮮なものばかりで吸収するものがたくさんありました。特にバンクーバー沖縄県友愛会やホストファミリーとの交流がとても印象に残りました。

ホームステイ先では、ほぼ英語での会話の中で、日本や沖縄の文化を教え、ホストファミリーとお互いに趣味を共有することができました。ファミリーとの会話を大切にすることで本当の家族のようになったことがこの研修で私にとって一番の思い出で宝物になりました。バンクーバー沖縄県友愛会のサマーピクニックでは、私はたくさん方々との交流とおして様々な発見がありました。まず沖縄の伝統文化です。友愛会のみなさんは沖縄の伝統舞踊、若者達は「琉球ダイナミック」を披露してくださり、またピクニック参加者全員で「てぃんさぐぬ花」を歌い、沖縄の音楽を楽しみました。その時私はまるで沖縄にいるような感覚になりました。それと同時に友愛会のみなさんは沖縄に住んでいる人たちよりも沖縄のことが大好きだと思いました。

私は、自分が沖縄に住んでいるのに、バンクーバーに住む県系人の方々の方が私より沖縄のことをたくさん知っていて、恥ずかしくなりました。そして、沖縄についてもっと深く学びたいと思いました。次に、印象に残っていることは、若者交流会です。主に、これからウチナーネットワークをどのように構築していくか、友愛会の若者たちと議論しました。沖縄について知らない、興味がないといった方がいる中で、ウチナーネットワークを継承する若者が少ないことが大きな課題としてあげられました。

私は、ウチナーネットワークを構築、継承していくためには、現在若者の間にあるSNSを中心に交流や沖縄の文化や県系人の存在を多くの人に伝えていく必要があると考えます。これからは私達や海邦養秀ネットワーク構築事業に参加した全員が率先して、ホストファミリーとの交流はもちろん、研修で繋がった方々との繋がりを絶やさずに大切にしていきたいです。

この事業に参加することで、積極的に自ら行動し、自分の意見をしっかり言うようになるなど、自分の性格的な部分が変わったことを実感しています。これからは、このプログラムを通して学んだウチナーネットワークをつなげていくために、世界のウチナーンチュ大会などのイベントへの参加をとおして、沖縄を盛り上げていきたいと強く思いました。

この研修に参加できたのも、家族や友達の支えがあったからこそなので、携わってくれた方々に感謝しながら、沖縄の文化を学び、ウチナーネットワークを広め、繋げていきたいです。

向陽高等学校　2年生　名嘉村　太一

僕は海邦養秀ネットワーク構築事業に参加し、事前研修から始まりカナダでの本研修、事後研修、報告会を通して、人と積極的に関わるようになったり、世界へ視野に広がったりと自分の成長を感じています。最初はただカナダに行けるのかあ、短期留学も興味あったしやってみよう！ということでこのプログラムに応募し、参加させて頂きました。そして事前研修を通して、この事業で自分たちが何をしていくのか、とういうのを分かっていくうちに、沖縄県の若者を代表してバンクーバーに行くんだという自覚を持ちました。そしてバンクーバーと沖縄のウチナーンチュのネットワーク構築、それを将来も継続していくという目的を持ってバンクーバーでの研修に挑むことができ、カナダでの日系人の歴史や、県人会の活動についてなど沢山の事を学ぶことができました。

僕がこの研修で最も学びとなったイベントが、最終日にあったバンクーバー沖縄友愛会主催のピクニックです。友愛会は沖縄にルーツがある方ももちろんですが、沖縄の文化などが好きという理由で友愛会に参加している人もいて、沢山の方々と沖縄やバンクーバーのことについて意見交換できました。自分の地元である南風原町出身の方とも話すことができ、今の街並みなどの話をすることができすごく新鮮でした。また、現地の方々と海邦養秀メンバーでの「若者ディスカッション」では、三線などの沖縄の文化をカナダでもっと広めるためにはどうしたら良いかというトピックについて話し合いました。色んな行事などで三線やエイサーを披露する、SNS などで発信していくことが意見として出ました。そして今、友愛会の若い世代の繋がりが弱いという問題点が出てきました。カナダは国土が広く、友愛会などの集まりに行きたくても遠くて行けなかったりするそうです。そこで、SNS を活用してビデオ通話などでお互いが今どんな活動をしているのかを共有できるようにしていこうという結論に至りました。海邦養秀のメンバーも、現地の方々と今も SNS でやりとりを続けています。沖縄から私達がバンクーバーに来たことで、より友愛会が活性化し、若者も増えていくと良いなと思います。

そして、辻本家でのホームステイも一生忘れることのない素晴らしい経験でした。毎日朝昼晩美味しい食事を頂くことができ、ファミリーデイにはカナダの雄大な自然を感じるドライブに連れて行ってくれたりしてすごく感謝しています。ホストファザーのヒロさんとは、毎晩仕事に関するお話や、沖縄のことなどの話をすることができました。ヒロさんは沖縄への愛が強く、沖縄に住んでる僕よりも詳しかったです。ヒロさんは僕に、沖縄の文化をもっと学んでほしい、こんな素晴らしいものは他にないよ！と熱く語ってくれました。

この研修後、僕はしまくとぅばをマスターしよう！と決意しました。バンクーバーで出会った人々に沖縄の文化の素晴らしさを改めて気づかされたと思います。また異文化にも沢山触れ、自分の将来の目標なども少しずつ明確にすることが出来ました。この研修で得たことは一生の宝物です！

那覇国際高等学校　2年生　仲嶺　真依

私は将来、沖縄の観光に携われるような仕事に就きたいと考えています。今回の派遣を通してウチナーンチュについての知識を深め、沖縄を色々な角度から見つめ、沖縄に関心のある人々と交流することを通して、沖縄をもっと深く知りたいと思い、海邦養秀ネットワーク構築事業に応募することを決めました。私は今まで日本を出たことがなかったので、私が知らない世界に会いに行くことに楽しみを覚えつつ、少し不安を感じていましたが、バンクーバーに着いてたくさんの刺激を受け、様々な経験をすることができました。

まず初めに驚いたのはウェルカムパーティーでした。私たちのホストファミリーが集まってくださったのですが、おばあちゃんたちが沖縄の歌を元気に歌っているのを見て、沖縄にいなくても沖縄への愛を持ってくれている人がいるということに凄く感銘を受けました。

また、研修の中で一緒に行動した日系2世の朝田陽向(あさだひなた)さんとの出会ったことが私の1番の思い出です。陽向さんは、両親はどちらも日本人だけれど、生まれ育ちはカナダだそうです。陽向さんは、バンクーバー沖縄太鼓という団体に所属しており、エイサーも上手で、三線も習っているそうです。遠く離れた異国の地で、沖縄の伝統文化が受け継がれていることに感動しました。私は、今までエイサーや三線などに興味を持つことがなかったので、陽向さんの活動を聞いて素晴らしいと思った反面、悔しさを感じましたが、こんなにも沖縄のことを愛してくれている同世代の子がいるんだ、という刺激も受け、沖縄の文化にもっと関心を持って陽向さんのように文化継承に繋がる取り組みをするべきだと痛感しました。

バンクーバー沖縄県友愛会主催のサマーピクニックでは、カナダに住む若い世代の人達と沖縄のことを語り合いました。ある男性が、沖縄には素晴らしい伝統文化や芸能があり、それが今も継承されていることは誇らしいことだから、自分も沖縄で育ちたかったと話していたことです。沖縄に住む私たちからすると当たり前のような風景や習慣が、沖縄に住んでいない人からすると、それが当たり前ではない素敵なものと感じられていると知り、もっと沖縄の文化を大事にしようと思いました。ピクニックでは、世代を問わずカナダに住むウチナーンチュや日系人の方々とたくさんお話をしました。会話の中で共通して出てきたのは[世界のウチナーンチュ大会]です。「またウチナーンチュ大会で会おうね～」とたくさんの方々から言われたので、5年に1度しかないウチナーンチュ大会のことをとても大切に想っているのだと感じられました。ウチナーンチュ大会では、世界各国の沖縄県人会のメンバーと交流できるから毎回とても楽しみだという人が多く、沖縄と世界の繋がりの強さを感じました。

今回の研修で出会えた方々との繋がりを忘れず、世界規模でウチナーンチュの心の繋がりを発信し、継承していくためにも、世界と沖縄を繋ぐイベントに積極的に参加し、これからのネットワーク構築に貢献していけるよう日々精進します。初めて海外に出て沖縄を見つめ直すと、伝統文化など、沖縄には素晴らしいものが多くあることに改めて気付かされ、また、沖縄に対する思いを持つ人が多くいることを知りました。世界のウチナーンチュとの繋がりを学び、カナダのウチナーンチュの方々とお話しする中で、沖縄に対する彼らの熱い想いに触れて、私の沖縄に対する想いも強くなりました。学生時代にこのような世界と沖縄の繋がりを肌で感じられてとてもいい経験になりました。沖縄の学生はあまり沖縄の歴史や文化に関心が無いように思われます。しかし、遠く離れたカナダで沖縄の文化が大切にされているのを見て、まずはこの現状を打破しなければならないと感じ、世界のウチナーンチュとの交流を通して感じたことを伝えることから始めようと思いました。将来は、観光客に沖縄の自然や文化だけでなく、世界に住むウチナーンチュについて知ってもらえるようなツアーを提供したいと考えています。この研修をきっかけに、今まで以上に沖縄のものに関心を持って沖縄愛を深めていきたいと思います。

開邦高等学校　2年生　松林　永和

沖縄で生まれ育った私は沖縄が大好きです。しかしどこがどのようにかと言われたらうまく伝えられません。本当は沖縄のことを知らないだけなのではないか、そう思いました。そんな私に変化が訪れたのは今年の夏です。「海邦養秀ネットワーク構築事業」は海外に住むウチナーンチュとの交流を通してネットワークを広げていこうというプログラムです。沖縄のことを知れる絶好の機会だとも思いました。初めは 10 人という枠に自分が入れるかと不安が大きかったけれど、合格したときは涙が出るくらい嬉しかったです。私がこのプログラムを通して得たものは人との出会いです。ホストファミリーの奥間ファミリーをはじめバンクーバー沖縄県友愛会の方々、そして海邦養秀ネットワーク構築事業カナダ派遣のメンバー達。彼らとの出会いを通して、私の考えや将来の夢が変わりました。

研修の前後で変わったことの１つ目は、沖縄に対する思いです。ホストファミリーの家では BGM に沖縄民謡が流れ、三線で弾き語りをしたり、沖縄料理を楽しみました。友愛会主催のサマーピクニックではかぎやで風やダイナミック琉球など、沖縄の伝統芸能で場が盛り上がりました。10 日間で感じた友愛会の方々の“沖縄愛”は忘れられないでしょう。また、同時に私の無知さを思い知りました。私も沖縄の文化を身に着けたい。そう思い、さっそく祖父に三線を習いました。とても難しいけれど、一曲披露できるように練習しているところです。２つ目は、視野の広がりです。カナダに行ってたくさんの方と出会い、たくさんの話を聞き、おなじウチナーンチュの海外での活躍を目のあたりにしました。４日目の日系企業視察で訪問した Republica　Coffee　Roasters のオーナーであるヒロさんの話はとても印象に残っています。日系であるがための苦労やひろさんの努力、開業までの経緯の話は未知の世界でとても興味深かったです。店内は紅型が飾られていて沖縄を感じさせる雰囲気がありました。今後、沖縄への出店を考えているそうです。ヒロさんの「失敗してもいい、やる気と自信があれば何度でも立ち上がれる」という言葉が私の将来の夢へのモチベーションになり、私も海外で沖縄のことを発信する人になりたいと思いました。だから、報告会での私の行動宣言は“世界で活躍するウチナーンチュになる”でした。将来、世界と沖縄のウチナーンチュのネットワークの架け橋になれるように語学力の向上はもちろん、海外に沖縄を発信する！という強い意志を持って行動していこうと思います。

沖縄とカナダ。遠く離れた２つの国を行き来するのは簡単ではありません。今回の派遣で出会った方々と再会できるのも何年後かになるのでしょう。帰国してから、お互いの誕生日やクリスマス、バンクーバー沖縄県友愛会の新年会、海邦養秀ネットワーク構築事業の OBOG 会のことを SNS を活用し共有してきました。今までの写真や動画を見る度に再会できる日がとても待ち遠しいです。この研修で出会った多くの方々に感謝し、今後もウチナーネットワークを継承していけるよう邁進していきます。

昭和薬科大学付属高等学校　2年生　高江洲　ノリカ

私が海邦養秀ネットワークに参加したのは、学校の授業を通して、自分の生まれ育った沖縄について深く考えた事が無いことに気づき、沖縄についてもっと学び、自分と同じように沖縄について知らない同世代の人々に伝えていきたいと思ったからです。そして、私の祖父が受け継いできた壺屋焼の伝統をたくさんの人に伝えたいと思ったからです。

カナダのバンクーバー沖縄県友愛会を訪れるまで、自身のファミリーヒストリーを調べる事や、カナダについてグループでの調べ学習を通して沖縄や移民の方々の歴史やカナダの文化などを学びました。なかでも私が心に残っているのは、自分の家族の歴史、ファミリーヒストリーについて調べたことです。私は、母方の祖母がフィリピンに住んでいたことを思い出して祖母に話を聞きました。祖母は今年、83 歳になりますが、フィリピンでの生活の話を聞くことははじめてだったので、この機会に話を聞くことができたことはとても良かったです。また、沖縄の歴史や文化について深く学ぶことができ、これまで知らなかった沖縄を新たに発見することができました。

カナダでの本研修は、バンクーバー沖縄県友愛会の方々が主催してくださったウェルカムパーティーから始まりました。ウェルカムパーティーでは、ホストファミリーの方々にあたたかいおもてなしと沖縄にいるような雰囲気の中で歓迎をしていただいたので、少しずつ緊張や不安もなくなり、自分の事をより知ってもらうためのゲームをしたり、沖縄について学んだ事を活かして話をしたりと、より交流を深めることができました。また、カナダ滞在中は、ホストファミリーの方々のサポートもあり、充実した日々を送ることができました。プログラム7日目の日系カナダ人国立博物館・文化センターの研修では、カナダ日系人の方々の苦労や抵抗など様々な足跡を辿ることができ、事前研修で学んだことを自分自身で感じることができ、その知識を深めることができました。

そして私が研修で一番心に残ったことは、最後の日の友愛会のピクニックです。ピクニックでは自ら積極的に友愛会の方々に話しかけたり、私の住んでいる壺屋についてお話をすることができました。カナダという遠い国でも、壺屋焼について興味を持ってくださっている方がいて壺屋について話をすることができたことはとても嬉しかったです。友愛会の方々は、初めに移民としてカナダに来たときはつらいこともたくさんあったけれど、何事も諦めず努力し続けることで、前を向いて生活していくことができたと話していました。ピクニックに参加していた県系 1 世の方や 2 世の方など広い世代の方々と交流をすることができ沖縄に対するさまざまな思いを感じました。そして、ピクニックでは、沖縄の料理や三線など沖縄の文化を大切に受け継いでおり、カナダにいながらも沖縄にいるかのようで、友愛会の方々の沖縄への強い愛を感じました。

この研修を通して、これまで知らなかった沖縄の歴史や県系の方の想いを再発見し、遠く離れたカナダに沖縄のことを心から大切に思っている人々がいるということを知りました。8日間の研修を通して、私たちをあたたかく迎え入れてくださった、友愛会のみなさんやホストファミリーの大山さんに感謝して、今回出会ったたくさんの人々との縁をこれからも大切にしていきたいです。

最後に全世界には約 45 万人のウチナーンチュ、友愛会・県人会が約 90 団体あるといわれています。世界中に住むウチナーンチュの方々とこれからのネットワークを繋いでいくためにも、この研修で学んだことを沖縄に住むウチナーンチュに伝えていこうと思いました。

那覇高等学校　1年生　上地　勇太郎

私が海邦養秀ネットワーク構築事業に参加した大きな理由は海外を見たいというのが理由でした。しかし、実際に合格して事前研修を行い、このプログラムが持っている本来の目的と参加者としての責任を感じました。どうやってこれからのウチナーネットワークを構築していく若者になって帰ってくるのかを問う研修内容でした。

現地研修では、バンクーバーの素晴らしい景色や観光スポットを見ることができただけでなく、日系企業視察、若者交流会などの現地のウチナーンチュと関われることもとても意味のある体験でした。

日系企業視察では、Republica Coffee Roasters を経営している、ホストファザーの辻本広之さんから、会社の成り立ちやそれまでの経験など、貴重なお話を聞くことができました。生まれも育ちもカナダでありながら、沖縄のルーツをもち、ウチナーンチュとしてのアイデンティティを大事にしている広之さんの姿は、私達海邦養秀のメンバーと何も変わらないように見えました。その中で沖縄の若者はウチナーンチュであることを自覚せず、誇りに思っていない人が多く、それに対する恥ずかしさや悔しさを感じた場面でもありました。

若者交流会では、多くの沖縄県友愛会の皆さんと交流することができました。その中でも友愛会の皆さんが三線を弾いたり、手踊りをしている姿を見て感動しながらも、どこか三線も弾けない自分に対する悔しさがここでもありました。なぜ沖縄から来ている私達が沖縄の楽器や伝統文化でおもてなしされているのか、本当は逆ではないかという気持ちが帰国後感じつつあります。沖縄で少しでも私ができる沖縄の文化や伝統を増やしていきたいと強く思いました。

今回の研修でお世話になった、ホストファミリーである辻本家の皆さんにはとても感謝しています。バンクーバーで毎日が楽しく過ごせたのは、辻本家の皆さんがいたからです。帰国前に訪れた施設で、スマホを落として深夜から迷惑をかけたのも今では笑い話です笑。じいじとばあばも毎日美味しいご飯を作ってくれて感謝でいっぱいです。空港で広之さんが言ってくれた「いつでも待ってるからね」という言葉は本当に嬉しかったです。将来、再会できるのをとても楽しみにしています。

最後に私は 8 日間の研修で、バンクーバーの町や文化についての驚き、観光やホストファミリーと過ごした思い出、カナダのウチナーンチュと関わって沖縄の伝統を知らない、できないと気づいた時の悔しさ、もどかしさなど多くの感情がありました。沖縄県民である私達が三線や手踊りができないのは、沖縄に住んでいて当たり前にある文化だからではないでしょうか。身近に聞く三線や、エイサーも一度沖縄を離れるとどれだけ素晴らしい文化なのかわかる。それがこの研修で私が思ったことの１つです。だから、友愛会の方々は沖縄の文化や伝統を誇りに思い沖縄のことを私達より思っているのではないでしょうか。

私は、これから、ウチナーネットワークの構築のためにできることをはじめ、そして将来友愛会の皆さんに成長した姿を見せることができるよう努力していきます。

今回の研修をサポートしてくれた方々、事務局、沖縄県友愛会の皆さんに感謝し、これから頑張っていきます。

向陽高等学校　1年生　譜久島　光莉

私は高校に入学する前から、高校生活では沢山の事に挑戦し、将来に刺激を与えていこうと思っていました。それから入学後、所属している向陽高校で開かれた留学総合説明会に参加し、この事業と出会う事ができました。

私は、以前から独自の文化を持つ先住民に興味があり、その中でも多様な民族が共存しているカナダは更に強く関心を持っていました。そして、いつかカナダに行き現地の先住民や人類について沢山学ぶことが夢でした。そんな矢先、この事業に出会い、カナダと沖縄のつながりを知り、夢を叶えるチャンスが来たと運命を感じました。そして、カナダに住むウチナーンチュと沖縄に関する共通の話題を通して伝え合うことで絆を深めたいと強く思いました。

事前研修では、学校で深く学べなかった沖縄の移民の歴史や、今まで調べることのなかった私のルーツなどを学ぶ機会も多くありました。正直、事前研修は丸一日中で宿題も毎回沢山あり、きつかったです。そして、本研修では事前研修で学んだ英会話や沖縄に関する基本的な知識を利用して、積極的に質問をし、県系人ならではの沖縄に対する思いや、日系人としてカナダで生きる意味を知る事ができ、充実した日々を過ごす事が出来たと思います。

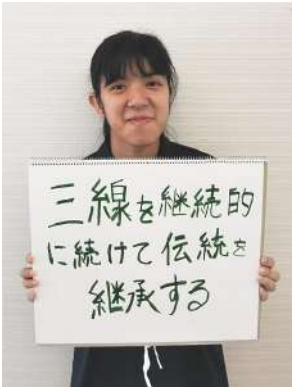
自分が今まで見てきたちっぽけな世界とは１８０度異なったカナダは、沖縄とは比べ物にならないくらい広く、世界のグローバル化がより一層進んでいて、それに伴い先進した政策もとられていました。現地では毎日が新鮮でワクワクし、貴重な経験を沢山することができました。在バンクーバー日本国総領事館を訪れて総領事と面会をしたり、バーナビー日本語学校で日本語を学ぶ生徒と交流をすることもできました。なかでも、一番心に残っていることは、バンクーバー沖縄県友愛会主催のサマーピクニックです。サマーピクニックでは友愛会の方々とゲームや食事を通して、沢山交流することができました。その中で、友愛会で三線を習っている方々に披露してもらった歌「安里屋ユンタ」を聞き、遠く離れたカナダでも沖縄の伝統芸能を守り、継承させていこうと努力していることを知り、心を打たれました。それと同時に、カナダにいながらも沖縄の音を聞き、ウチナーを感じる事ができ、何とも言えない不思議な感覚にとらわれました。そこから、彼らが持っている「沖縄愛」や、「ウチナーンチュとしてのアイデンティティ」を感じる事ができました。私は、今まで沖縄について興味や関心を持ったことがありませんでした。しかし、彼らとの交流を通して、「沖縄は自分が生まれ育った素晴らしい島」なのだということに気づかされるのと同時に、愛着が持てるようになりました。これからは、もっと自ら主体となって沖縄について学び、自らが学んだ事を多くの沖縄県民や、沖縄の事をまだあまり知らない県系人に発信できるようになりたいと思うようになりました。また、今回の事業をきっかけに、沖縄の歴史にも興味を持ったので、遺跡や伝説が残る場所などにも足を運んでみたいと思います。

また、この研修を通して自ら発信する力が養われたと思います。これまでは、大勢の人前で話をする時に緊張し、積極的に行動することが苦手でした。しかし、この研修に参加して多くの事に挑戦し経験することで、自分に自信がついて、外部に対して発信する力が養われたと思います。それと同時に、適応力も付き冷静にその場の状況を把握し判断して、臨機応変に対応することができるようになりました。今後は、この研修で養った力を自分の武器として、様々な分野で活躍できるようになりたいと思っています。

行動宣言

報告会でバンクーバーでの経験を活かして今後どのような活動を行っていくか宣言しました。

我喜屋　渚



池原　有沙

砂川　周

石川　作実

名嘉村　太一

仲嶺　真依

松林　永和

高江洲　ノリカ

上地　勇太郎

譜久島　光莉

派遣後の活動～研修での学びを学校の報告会やイベントで発信～

●松林永和(開邦高等学校)

【実施日】2019 年8月 26 日(月)

【場　所】開邦高等学校

【内容・感想】

　カナダから帰ってきて 2 週間後の夏季短期留学報告会にて発表を行いました。10 日間の研修はとても充実していて熱く語ることができました。写真をたくさん使ってパワーポイントを作ったことで研修の様子をより分かりやすく伝えられたと思います。後日、来年度チャレンジしてみたい！と後輩が興味を持ってくれたので嬉しかったです。これからもカナダと沖縄を繋ぎ、うちなーネットワークの継承に携わっていきたいです。

●石川作実(宮古高等学校)

【実施日】2019 年8月 29 日(木)

【場　所】宮古高等学校

【内容・感想】

　宮古高校2学期の始業式での海外派遣プログラム参加者の発表にて、海邦養秀バンクーバー研修について口頭で発表しました。プログラムの内容はもちろん、研修中で経験したこと、発見したことや、研修の前と後の自分自身の変化を宮古高校全校生徒に話せることができました。約 3 分間の発表ではありましたが、発表後、多くの方がこのプログラムについて詳しく話を聞きたいと声をかけてくださった方々がたくさんいて、とても嬉しかったです。

●譜久島光莉 （向陽高等学校）

【実施日】2019 年9月7日(土)

【場　所】向陽高等学校

【内容・感想】

　全学年の全体朝会で事後報告を行いました。短い時間でしたが、カナダに行って自分の中で変わったこと、そこから考えたこと、これから留学をしたい思っている人へのメッセージを発信しました。カナダでの経験したことが沢山あり、話したい事をまとめるのが難しかったですが、事前研修で養うことができた「人前で自分の考えを話す力」を活かすことができたと思います。友達や先生方からの反響も大きく、私自身も刺激を受けることができました。

●高江洲ノリカ （昭和薬科大学付属高等学校）

【実施日】2019 年9月 17 日(火)

【場　所】昭和薬科大学付属高等学校

【内容・感想】

昭和薬科大学附属高校・中学校の留学報告会で学んだことについての報告を行いました。事前研修でこれまで学ぶ機会の少なかった沖縄について知ることができた事、実際にバンクーバーでの友愛会の方々の沖縄への強い想いに感動した事を発表しました。発表を通して、研修を通して学んだ事、感じたことを改めて考え直すことができ、研修で学んだことをたくさんの人に発信できたと思います。

●派遣学生

【実施日】2019 年 11 月２日(土)、３日(日)

【場　所】JICA 沖縄

【内容・感想】

派遣学生で毎年開催される「沖縄国際協力・交流フェスティバル」へ参加しました。沖縄県のブースで海邦養秀ネットワーク構築事業のコーナーを設け、来場者に事業概要や派遣中の出来事について紹介しました。来場者の方から、「県人会について知る事ができた。」「来年は応募をしてみたい！」という声もあり、しっかり県民に事業周知をすることができました。

●仲嶺真依 （那覇国際高等学校）

【実施日】2019 年 12 月 20 日(金)

【場　所】那覇国際高等学校

【内容・感想】

留学プログラム報告会で1、2年生を対象に本事業の研修内容を発表しました。研修の雰囲気を知ってほしかったので、主に現地での写真をパワーポイントにまとめました。学校の授業で移民学習を取り扱わないからこそ多くの収穫がある、というこの研修の良さをたくさん伝えることが出来たので、留学希望者に興味を持ってもらうことに繋がりました。

●池原有沙（専門学校日経ビジネス）

【実施日】2020 年1月６日(月)

【場　所】専門学校日経ビジネス　中部校

【内容・感想】

研修の目的や説明をはじめ本研修の内容、私自身が現地で学んだことや気付いたことをパワーポイントと共に発表しました。発表中は緊張もありましたが、この事業のことをクラスメイトや後輩に知って欲しい、興味を持って欲しいという思いで伝えました。発表後に、成長できた部分や志願理由、カナダへ行って感じた違いなど色々な視点から質問がありました。このプレゼンを通して、来年度挑戦したい学生が増えてくれると嬉しいです。

●派遣学生8名参加

【実施日】2020 年1月 19 日(日)

【場　所】浦添市内

【内容・感想】

海邦養秀ネットワーク構築事業で過去に参加した先輩との OBOG 会に参加しました。2017 年度アルゼンチン、2018 年度アメリカ・カリフォルニア派遣の先輩と派遣時の思い出や、現在の活動状況などの情報を共有し、意見交換を行いました。OBOG 会に参加することで、派遣年度を越えた縦の繋がりができました。

派遣後アンケート

Q1. 滞在中、世界のウチナーンチュの歴史や生活、ウチナーネットワークを学ぶことができましたか？

具体的な内容・エピソード(抜粋)

・ワーキングホリデイでリパブリカコーヒーにて働いているNeneさんと交流やお話をして、現地の方とのネットワークの取り方やウチナーンチュとして伝統芸能は継承していくべきだね。というようなお話をしました。
・ホストファミリーが沖縄の思い出や沖縄に対する想いを話してくれて、私たちもウチナーネットワークの一員として参加していく事の大切さを知りました。
・琉球舞踊や三線を披露していた.。家で沖縄民謡が流れていた。
・ホームステイ先のおじいちゃん、おばあちゃんが新しい生活を求めてカナダへ移住したことや、身内が県人会の人たちと繋がっていた。
・日系センターで日本の移民の方の生活について写真や展示物を通して知ることが出来た。事前学習でのバンクーバーの朝日のことも理解が深まった。
・ホームステイでホストマザーのTeriさんが沖縄に留学した時の話だったり、友愛会の年配の方々から話を聞くことが出来た。

Q2. 派遣先のバンクーバー沖縄県友愛会の方々との交流はできましたか？印象に残っている交流は何ですか？

サマーピクニック

・沖縄の文化を尊重し、三線やダイナミック琉球を踊っている姿が印象に残っています。私もウチナーンチュとして沖縄について知っていくべきだと思いました。
・おばあちゃんたちとたくさん喋って、またウチナーンチュ大会で会おうねという話を何度もしたのでウチナーンチュ大会に対する愛がすごい。

若者交流会

・カナダから見た沖縄のことや、意外と自分も沖縄のことを知らないなと気付いた。
・友愛会の現状が知れたことが一番大きかった。また同い年の人とも交流することができたけど、帰国してからの交流はまだ進んでいないので、家に帰ったらやります。
・Hinataさんとの交流が印象に残っています。お互いに三線やエイサーなど芸能の部分で共通のことをしているし、歳が近いというのもあってどういう風にしたら興味を持ってもらえるかとか、沖縄とカナダで出来るネットワークの構築や継承の部分について色々と話せたなと思いました。

ホームステイ・ホストとの交流

・ホストファザーの沖縄についてのエピソードを聞けた。
・メンバーのホームステイ先の方々といろいろとお話が出来て、特に自分のホームステイ先のHiroさん

のお話は、自分の将来に対して大きく影響を与えてくれた。

・ホストシスターのTeiyaとMaiyaだけではなく、自分と同年代くらいの子と海で遊んで話している中で沖縄の話をしたこと。またHinataさんと沖縄について深く話したこと。

・私はUBCでHinataさんとたくさんお話ができた。UBCの人類学博物館で展示物やディスプレイを見て、カナダの先住民の方のお話も聞けたし、沖縄の文化や伝統についてもたくさん話せた。

Q3. あなたが期待したことはこのホームスティツアーでどのくらい達成されましたか？（一部抜粋）

・達成度：120％　ホストファミリーがすごく良い方たちで、充実していて、初めての体験が多い中ですべてが自分にとってプラスに働いたから。

・達成度：100％　連絡先の交換が出来て、帰国後も連絡をとりあえているから。次にカナダへ行くときに連絡し、再会することを実現したい。

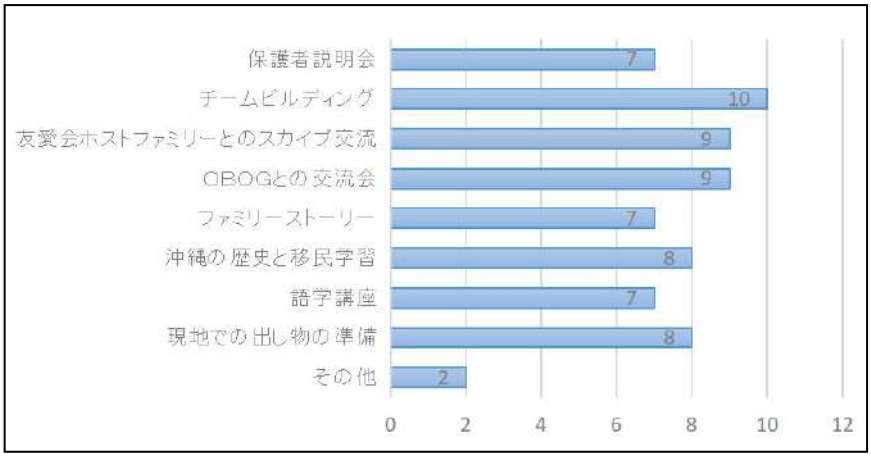
・達成度：100％　ホストの方からカナダでの生活や食事、移民の話が聞けたから。

・達成度：100％　バンクーバーに来た経緯や、苦労、今の生活について自分から聞けて、それをインプットすることができたから。

・達成度：　90％　英語力がまだまだ足りないと感じた。自分が話す言葉は理解しようとしてくださって伝わるこが多かったけれど、リスニング力をもっとつけてたくさんの人と話したいと思った。

・達成度：　50％　メイントピックである「ネットワーク構築」について話す時間が少なかったし、もっと沢山ディスカッションの時間がほしかった。

Q4. 事前研修のどのプログラムが役に立ちましたか？（複数回答可）



・その他　県費留学生によるバンクーバー沖縄県友愛会のお話。
　　宿泊研修したこと。

Q5. その他に事前に学んでいたほうが良かったと思うことを聞かせてください。

・“沖縄の伝統文化”についてもっと詳しく歴史や楽器などの名称などについて学んでいても良かったなと思いました。

・(英語での)よく使うフレーズや英単語。
・ホストファミリーの事をもっとたくさん知りたかった。(事前に)
・やはり英語のコミニケーションが中々上手くいかなかったので個人的にもっと勉強していくべきだったと感じた。
・行く場所すべての建築物などについての学習をしたほうがもっと楽しいと思う。
・ドルについて調べる。
・お金の数え方を知っとくべきだった。
・(英語での)発音より自分の意見や注文、質問などの良く使うフレーズとかを学んだらより使えたかなとも思います。

Q6. 現地での研修をよりよくするために改善した方がよいことを聞かせてください。

・事前準備でチームでやることの時間をもっとほしかった。(出し物、授業)
・事前研修が足りないかも・・・出し物の準備等の時間が少なくて辛かった。
・もっと日にちを増やした方が良かったと思う。若者の交流会の時、あまり時間が取れなかったのもあるし、もっとたくさんホストファミリーと過ごしたかった。
・出し物の話し合いを長くした方が良い。事前研修を１日増やして丸１日出し物の日にしてほしい。
・可能なら最終日以外にも若者交流会的な日程が欲しかった。
・ホストファミリーの情報がもう少し欲しい。
・チームでのディスカッションの時間を増やす。沖縄についての授業。

Q7. その他感想、要望・意見などがあったら聞かせて下さい。

・とても貴重な体験ができたと思う。いろいろな人に感謝してこれからのウチナーネットワークに貢献できたと思う。
・良い活動になりました。
・日誌の書く欄が日に日に狭くなった。
・インスタグラムで海邦養秀のアカウントがあったらもっと多くの人に知ってもらえると思う。15日ぐらいはバンクーバーに居たかった。
・本研修でカナダと沖縄両方好きになり、自分は沖縄の文化を学ぶきっかけにもなった。参加ができて本当に良かったです。ありがとうございました！！

ホストファミリーアンケート

Q1. 事業に関する総合的な感想を記述してください。（良かった点、改善すべき点、参加者に対する要望等）

・全体的にプログラムはとてもよかった。ホストファミリー全員が受入学生と仲良くなれたし、実施期間も適当だった。学生たちもよかった。しかし、８日間のプログラムを 10 万円の費用のみで運営するのは大変厳しく、増額した方が学生・ホストファミリーにとって良かったと思う。
・初めての経験だったが、受入学生と時間を過ごせてとても良かった。とても良い子たちで、子供たちも喜んでいた。良かった点としては日程がスムーズでアクティビティが豊富だったこと。
・いいプログラムだった。
・引率者の数を減らしても良い。ホストファミリーに渡す費用を増額すべき。

Q2. 実施時期は適当でしたか。その理由をお聞かせ下さい。

・適当だった。ホストファミリーのほとんどは週末休日なうえに実施期間中に公休日があったのでホストファミリーと学生が一緒に過ごす時間がいっぱいあった。
・適当だったが、更に2-4日間ほどあればよりホストファミリーと学生が過ごす時間があった方が良いと感じた。
・あと2日長ければよかったと思う。

Q3. ホームステイ参加者の資質で大切なことは何ですか。

※5つの選択項目からホストファミリーが多く選んだ項目順に並べました。
1位：積極的な態度
2位：ホームステイへの関心、語学力（同ポイント）
3位：国際交流や外国に対する関心
4位：沖縄を伝える力

Q4. 受け入れた参加者の生活・学習態度はいかがでしたか。

・とても礼儀正しく、しっかりしていて、愛想も良かった。楽しい時間を過ごすことができた。
・受け入れた学生たちがとても良かった。気配りができ、家族全員と積極的に話していた。とても楽しい時間を過ごせて、今いないのは寂しく思う。
・良い生活・学習態度だった。

Q5. 沖縄からの学生を受け入れたことで、何か変化ありましたか。それはどういう変化ですか。

・受入学生とのいい思い出ができた。また、沖縄や日本語・しまくとぅばについて学べるいい機会になった。また学生を受け入れてもいいと感じた。
・子供たちがまた近々沖縄に行きたがっている。

Q6. 受入期間中に困ったことはありましたか。それはどういうことでしたか。

・特になかった。

Q7. そのほかにご意見があれば、お聞かせ下さい。

・プログラムには沖縄からの引率が2名と旅行社1名が同行していた。とてもフレンドリーだったが、ボランティアが十分にいたので引率者3名は不要と感じた。カナダは安全な国なのでそう感じるが、他国では状況が違うかもしれない。
・アンケートの質問を改善すべき。また、ホストファミリーの何家族からは書面でアンケートを希望していた。

新聞記事

令和元年8月5日（月） 琉球新報社

県系人と交流 カナダへ出発

海邦養秀ネットワーク

県内の若者を海外へ派遣し現地の県系人と交流を深める「海邦養秀ネットワーク構築事業」（県主催）の参加者10人は3日、那覇空港から派遣先のカナダへ出発した。出発式では、派遣される県内の高校生や大学生が抱負を述べた。

現地の県人会の人々の家でホームステイをしながらインターナショナルスクールや日系企業、大学などを訪問し県系移民の歴史などを学ぶ。副専攻で日本語教育を学ぶ琉球大2年の我喜屋渚さん(19)は「現場を見て自分の将来につなげたい」と決意を述べた。那覇高1年の上地勇太郎さん(16)は「チャレンジ精神を生かしていろんなことを吸収したい」と目を輝かせた。

カナダへ派遣された海邦養秀ネットワーク構築事業の参加者＝3日、那覇空港

琉球新報社　提供

令和元年8月6日（火） 沖縄タイムス社

カナダの県系と親睦

海邦養秀ネット 県内学生ら出発

県内の学生が世界各地に住む県系人を訪れ、ホームステイを通してウチナーンチュの親睦を深める「海邦養秀ネットワーク構築事業」（主催・同実行委員会）の出発式が3日、那覇空港であった＝写真。県内の大学生と専門学校生、高校生10人が、2020年に移住120周年を迎えるカナダに向かった。

07年からスタートした同事業では、これまで北米や南米を中心に7カ国14都市に118人を派遣。今回は現地で9日間過ごし、同世代の学生らと交流しながら「世界のウチナーンチュ大会」もPRする。

宮古高校2年の石川作実さん(17)は「県系人と現地の人に沖縄や宮古島の良さを伝え、人脈を広げたい」と話した。最年長の琉球大学人文社会学部2年の我喜屋渚さん(19)は「カナダでは若い県系人の交流が薄いと聞いているので私たちが関係性の広がりを手助けしたい」と意欲を見せた。

沖縄タイムス社　提供

令和元年8月4日（日） 宮古毎日新聞社

2019年8月4日(日) 8:58

砂川、石川さんがカナダへ出発／海邦養秀ネットワーク事業

「海邦養秀ネットワーク構築事業」でカナダへ出発した沖大1年の砂川周さん（左）と、石川作実さん（宮高2年）＝3日、那覇空港

【那覇支社】夏休みの期間を利用して県内の若者を海外の県人会へ派遣する「海邦養秀ネットワーク構築事業」の出発式が３日、那覇空港で行われ、大学生２人、専門学校生１人、高校生７人の計10人が元気良くカナダへ出発した。宮古関係では、宮古出身の砂川周さん（沖縄大学１年）と、石川作実さん（宮高２年）が参加している。現地滞在期間は11日まで。

同事業は、ウチナーンチュ同士のネットワークを継承、発展させるため、『第４回世界のウチナーンチュ大会』（２００６年開催）を契機に07年から実施されている。これまで、海外７カ国13都市に１２８人が派遣された。

出発式では、山城貴子県文化スポーツ統括監が「カナダは来年、移民１２０周年の節目を迎える。先人たちは、いくつもの苦難を乗り越え、遠く離れた異国の地で生活基盤を築き上げてきた。現地県人会や県系人のたくましさや、沖縄への熱い思いに触れる絶好の機会。ホームステイ先の家族と結んだ絆や、県系人の若者たちとの友情は、かけがえのない財産になると思う」と激励した。

「海外や国際系の職業に興味がある」という砂川さんは、宮高を卒業し、現在は沖大国際コミュニケーション学科所属。式典では、「ホームステイ先に１人で訪問することになっているが、その分、周りよりチャンスが多くあると感じている」と力強く意気込みを述べた。

また、「将来は沖縄の医療に貢献する人になりたい」と話す石川さんは、式典で「事前研修で、沖縄に住みながらも沖縄のことを知らないなと気づいた。（カナダでは）宮古のことも、たくさん伝えていけたら良いなと思っている」と語った。

宮古毎日新聞社　提供

編集後記

沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課　マッコール亜貴子/小野英美

令和初の海邦養秀ネットワーク構築事業は、留学先として人気のカナダ･ブリティッシュコロンビア州へ 10 名の学生を派遣しました。現地では、2020 年にカナダ移民 120 周年及び設立 45 周年を迎えるバンクーバー沖縄県友愛会にお世話になりながら、通常の旅行で味わうことのできない経験をさせていただきました。

参加者は事前研修ではなかなか自分を出し切れない部分があったものの、現地では、ホスファミリーをはじめ、友愛会のみなさんと交流を深めました。出発前は発言も控え目だった 10 名ですが、ウェルカムパーティーではゲームを通して積極的に友愛会のみなさんに話しかけたり、ホストファミリーの子供たちのちょっかいに対応したり、最終日のサマーピクニックでは友愛会のみなさんと話足りないというほど、会話を楽しんでいた様子をみることができました。帰国日のお別れでは全員本物の家族を見ているようでした。

友愛会の方は、各ホストファミリー先での滞在中、学生一人一人が積極的に関わってくれたことで、沖縄の学生に刺激を受け、感激したと話していました。最終日には、沖縄の学生が来てくれてとてもうれしかった、今回の経験を将来に活かしてしてほしい、そしてまたカナダに遊びに来てほしいという、とても嬉しいメッセージをいただきました。

海外から沖縄、そして自分自身を見つめ、足りないものに気付いた参加者は、報告書の活動報告にあるように、様々な活動を実施しています。現地で感じたウチナーネットワークへの思いを一過性にしないために、小さくても自分ができることから取り組む参加者の姿には、沖縄の明るい未来が期待できると思います。

プログラムを通し、参加者が次世代の沖縄を担う人材として大きく成長することができたのも、多くの方々のご協力･ご尽力あってこそでした。奥間保会長を始めとするバンクーバー沖縄県友愛会の皆様には、参加者にとって第二の故郷を作っていただきました。そして、保護者や担任の先生の皆様には、現地で参加者が更新していた海邦養秀ネットワーク構築事業 Facebook の記事に常に「いいね！」を押してくださることで、遠い沖縄から温かい声援を感じることができました。本当にありがとうございました。

参加者の皆さんにはカナダで築いた「家族」との繋がりをいつまでも大切にしていき、これからも今回築いたウチナーネットワークが継承されるよう様々な分野でのみなさんの活躍を期待しています。

株式会社 国際旅行社　新里　聡/與那城　孝太

本事業を通して参加者が自発的に考え行動し、世界にいるウチナーンチュとの繋がりを深め、ネットワーク構築を広げるきっかけになるよう事業運営を目指しプログラムをスタートいたしました。県内在住の高校 1 年生から大学、専門学生含め合計 10 名の参加者は、これまでに様々な交流プログラムへ率先して参加している学生や、海外に興味を持っておりこの事業を機にステップアップを考えている学生、初めて海外へ渡航する学生など、各々がそれぞれの意欲や目的、夢や志を持って参加をしてくれました。

事前研修の初めの頃は緊張のせいなのか、なかなか自発的な意見や行動が見られず、事務局として不安に思う部分が多々ありましたが、同じ時間を過ごしているうちに、バンクーバーでの本研修の前には昔から知っている友人のように叱咤激励をしながら意見を出し合っていることに成長を感じました。また、深く学ぶことが初めてであろう移民の歴史や文化、背景について学びを吸収する態度や姿勢は素晴らしく感じました。

本研修では、バンクーバー沖縄県友愛会の皆様に大変お世話になりました。参加者はホストファミリーや現地で出会ったすべての方と共に過ごした時間を通して、様々な苦労があった海外ウチナーンチュの心を知り、日系人移民の過去・現在から未来のことを考え、ウチナーンチュの繋がりを大切にしていこうと思う気持ちが芽生えたと思います。

参加者達は帰国してからも、バンクーバーで繋がったウチナーンチュとコンタクトを取り続けたり、自ら沖縄を発信できるように伝統芸能・伝統文化を学び始めたいと各々が思いや成果を持ち帰り、ウチナーネットワークを広げております。今後も参加者たちが得た繋がりがより大きく、より深く、より広くなることを祈り、また参加者自らが主体的にネットワーク構築をしていくという気概を持って、小さな沖縄と世界中のウチナーンチュとを結ぶ懸け橋となるようグローバルな活躍が出来るよう切に願っております。

最後になりましたが、今回本事業への参加者を受け入れて下さったバンクーバー沖縄県友愛会の皆様、ホストファミリーの皆様、事前研修、事後研修でお世話になった講師の皆様、OBOG の皆様、参加者の皆様、参加者を支えて頂いたご父母の皆様及び本事業で出逢ったすべての方々へ感謝申し上げます。

令和元年度海邦養秀ネットワーク構築事業

海邦養秀ネットワーク構築事業実行委員会

（沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課）

発行年月　：　2020 年 1 月

受託者

株式会社国際旅行社